

今後の科学ミッションの打ち上げロケット

Launch Options for Science Missions in the New Era.

稲谷 芳文 [1]

Yoshifumi Inatani[1]

[1] 宇宙航空機構 宇宙研本部

[1] ISAS, JAXA

これまでの科学観測や探査には宇宙科学研究所のMシリーズロケットが用いられ、中型科学ミッションを中心に日本の宇宙科学の要請に応えてきた。JAXA統合後は新しい日本としての新しいロケットのラインアップを考える中で、科学衛星についても惑星探査や小型衛星などを含む幅広いミッションに対応することが求められており、新しい打ち上げ手段の整備の議論が進められている。この際小型のミッションも含めたミッション実行の頻度を増すことや打ち上げ費用の低減や機動的ミッション実行の体制を作ることが考慮されている。また弾道飛行を行って中高層大気現象を観測するためのいわゆる観測ロケットについても、発射点への帰還能力を有し高頻度の繰り返し飛行が可能なシステムの検討も行われている。この講演ではこれらの新しい時代の輸送手段の議論の状況について報告する。